感銘を受けた伊達市「こども論語塾」

教育長　菅野善昌

去る六月二十三日（土）に、霊山中央交流館で開催されたこども論語塾を参観してきました。この論語塾に参加していたのは、伊達市南エリア（保原、霊山、掛田）の各児童クラブの約四十五人のこどもたちです。

こどもたちの元気なあいさつの後、講師の川崎葉子先生から、「孔子」や「儒学」「論語」について大変わかりやすく説明をいただきました。さっそく素読に入り、『子曰わく、剛毅木訥、仁に近し。』の章が紹介されました。ここで、孔子が人にとって最も大切なものとして弟子たちに説いた「仁」についての話は、子どもたちの心を唸らせました。また、一つ一つの言葉や文字が持つ意味を具体的な例を挙げながら丁寧に説明してくださいました。私は、論語は子どもたちにとってやや難しいのではないかという考えを持っていました。しかし、子どもたちの熱心に学ぶ姿から、私の考え方は完全に覆されました。先生のとても分かりやすい解説によってどのこどもたちも論語の魅力に引き込まれて、目を輝かせて取り組んでいるのです。全部で五章を紹介していただき、あっという間の一時間の論語塾でした。こどもたちがやがて大人になり、辛いことや悲しいこと、苦しいことなどに出くわしたとき、学んだ論語の一章や一文字を思い出し、心のよりどころにしながらたくましく乗り越えてほしいと祈らずにいられませんでした。

当日学習した前出以外の四章を紹介します。

「子曰わく、　巧言令色、鮮し仁。」

「子曰わく、　故きを温ねて新しきを知れば、以って師と為るべし。」

「子曰わく、　教え有りて類無し。」

「子曰わく、　人能く道を弘む。道人を　弘むるに非ず。」